

花粉症性皮膚炎

花粉症は、くしゃみ・鼻水・鼻づまりなどの鼻炎症状と眼の痒み・涙目などの眼症状がよく知られていますが、皮膚に痒みを起こしてくるものを花粉症性皮膚炎と呼んでいます。これは、

花粉が顔や首等の露出部の皮膚に付着することが原因と考えられるもので、花粉症の鼻や眼の症状に先行して生じることがあり、花粉が原因だと気付かないこともあります。

特徴は、①花粉の季節に起こり他の季節にはないこと②顔・眼の周り・首等露出部に出ること③赤みと痒みがあり腫れぼったい蕁麻疹のような出方が多いこと、等です。

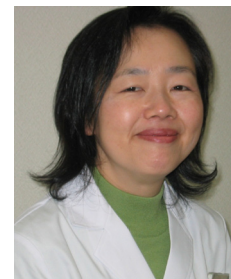
またアトピー性皮膚炎の患者さんの30%に皮膚炎の増悪が見られるといわれており、皮膚のバリアー機能（皮膚の角質層が外部からの侵入を防ぐ機能）が衰えていることが影響してい

るのではないかと考えられています。肌の乾燥や洗顔、クレンジング等による肌荒れ等も皮膚のバリアー機能を低下させることがあり、花粉症性皮膚炎の誘発原因になります。

予防は、スキンケアによる保湿と、花粉の付着をできるだけ避けることです。具体的には①洗顔は擦りすぎず保湿をしっかりすること②帰宅時にすぐに洗顔しておくこと③帽子等で髪に花粉がつくのを防ぐこと④洗濯物を外に干さないこと、等です。

治療は花粉症と同様に考えますが、皮膚症状の緩和には一時的にステロイドなどの外用剤を使います。

多摩地区はスギ花粉飛散が多い地区です。例年症状が出る場合は、あらかじめ抗アレルギー剤を内服し、予防しておくとうまいでしょう。



皮膚科・小児科
多摩ガーデンクリニック

かじやま リカ
梶山 理嘉

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医